

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 46人

② 算数 46人

5 留意事項

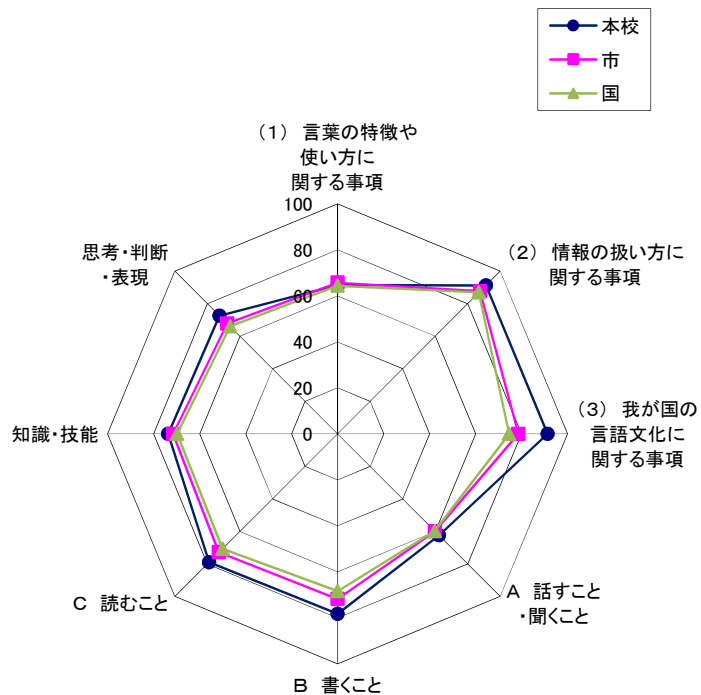
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.7	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	91.3	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	91.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	62.3	59.9	59.8
	B 書くこと	78.3	71.8	68.4
	C 読むこと	79.0	72.9	70.7
観点	知識・技能	73.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	72.6	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

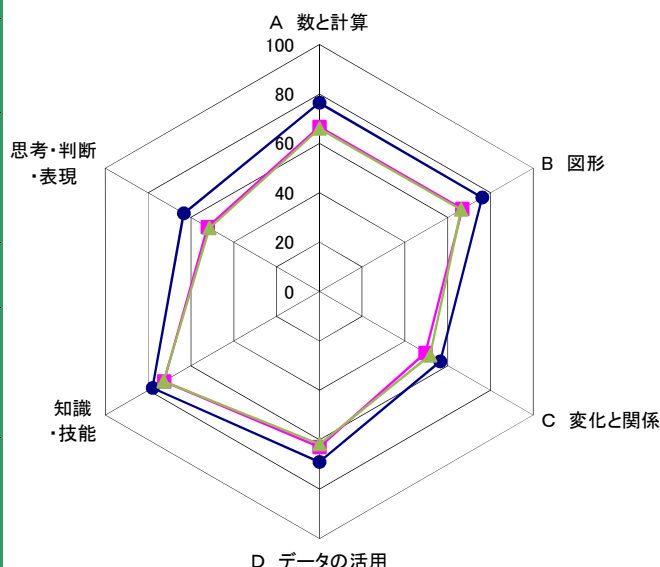
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、国を0.3ポイント上回ったが、市の平均を1ポイント下回った。</p> <p>○文の中の主語と述語の関係を捉える問題では、国の正答率を9.4ポイント上回っており、主語と述語の関係をよく理解している。</p> <p>●漢字を書く問題では、国の平均を6.4ポイント下回っていた。漢字を書く力に課題が見られる。</p> <p>●分かりやすい話し言葉についての問題では、国の平均を2ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の小テストを継続して行ったり、校内の漢字オリンピックに挑戦させたりすることで、漢字の力の定着を図る。また、学習した漢字を使って文章を書く指導を継続していく。</p> <p>・授業の中で、相手に分かりやすく伝えるために、話す順序や文の構成などを意識して話す機会を多く設定する。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は91.3%と高く、国や市の平均を4ポイント程度上回った。</p> <p>○情報と情報との関係付けの仕方や語句と語句の関係の表し方の理解についての問題では、国の正答率を4.4ポイント上回った。</p>	<p>・メモや図などから、いくつかの情報の関係を結び付けて考える活動を多く設定することで、情報の内容や関係性を正しく理解する力を育成する。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は91.3%と高く市や国の平均を12ポイント以上上回った。</p> <p>○読書のよさについて考える問題では、国の正答率を16.7ポイント上回っており、読書が自分の考えを広げることに関与することをよく理解している。</p>	<p>・読書に親しみ、自分の考えを広げ、豊かにすることができるよう、各教科の授業や朝の読書の時間を通して、様々な種類の良い本に触れる機会を多く設定する。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、62.3%で、市や国を2.5ポイント程度上回った。</p> <p>○紹介する内容を整理したメモから、目的や意図に応じて伝えたい内容を考える問題では、国の正答率を11.4ポイント上回った。</p> <p>●自分の考えが伝わるように表現を工夫することについての問題では、国の正答率を11.6ポイント下回った。話し方の工夫についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・話す活動のときに、紹介したり伝えたりする内容を整理し、目的や意図に応じて内容を考える学習を取り入れる。</p> <p>・自分の考えを伝え合う活動を積極的に設定し、よりよい伝え方の工夫を考え実践する経験を通して、伝える力を育成する。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、78.3%で市の平均を6.5ポイント、国の平均を9.9ポイント上回った。</p> <p>○目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように工夫して書く問題では、国の正答率を17.3ポイント上回った。メモをもとに、条件に合わせて文章を書くことができている。</p>	<p>・感想文や面白作文、新聞など様々な言語活動を通して、条件や目的に合わせた文章を書く力を伸ばしていく。</p> <p>・文章の構成や内容など、自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫について、継続して指導していく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、79.0%で国の平均を8.3ポイント、市の平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>○人物像を具体的に想像する問題では、国の正答率を12.3ポイント上回った。</p> <p>●物語を読み心に残ったことと理由を書く問題では、正答率は国と同程度であるが、県を3.1ポイント下回った。無回答率も10.9%と低く、物語の全体像や表現の工夫を捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・物語の学習では、登場人物の行動や会話などの描写に着目し、気持ちや人物像を想像する活動を継続して行い、文章描写をもとに心情や関係性を捉える力を伸ばしていく。</p> <p>・文章を読み、感想を書く活動を意図的に設定し、物語の全体像や表現の工夫について考えたことを感想に表現できるように指導していく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	76.4	66.7	66.0
	B 図形	76.1	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	56.5	49.6	51.7
	D データの活用	69.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	78.0	72.6	72.8
	思考・判断・表現	63.4	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は76.4%で、国の平均を10.4ポイント、市の平均を9.7ポイント上回った。</p> <p>○数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかを見る問題では、平均正答率が100%で国の平均を11.5ポイント上回った。</p>	<p>・今後も継続して、計算ドリルやAIドリルを繰り返し行い、基礎的な計算の定着を図る。</p> <p>・計算ができるだけでなく、なぜこの答えになるのか、計算過程を考えさせるために、グループで話合う機会を設けていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は76.1%で、国の平均を9.8ポイント、市の平均を9.2ポイント上回った。</p> <p>○球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかを見る問題では、国の正答率を20ポイント上回った。</p> <p>●直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題では、国の正答率を0.7ポイント下回った。</p>	<p>・言葉の公式を使って計算することができているので、日々の授業時も掲示物を作成し、目につく場所に貼るなどして意識させていく。</p> <p>・見取図などの作図を一人一人丁寧に指導していく。</p> <p>・具体物を用いて、立体の側面の数を捉えられるように指導していく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は56.5%で、国の平均を4.8ポイント、市の平均を6.9ポイント上回った。</p> <p>○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題では、国の正答率を6ポイント上回った。</p>	<p>・速さを求める学習で、時間や距離の単位変換がイメージできるよう、一覧で見ることができる表を作成し、問題に関連付けられるよう、指導していく。</p> <p>・日常生活で使う単位などを用いた問題に取り組み、定着を図る。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は69.0%で、国の平均を7.2ポイント、市の平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>○示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる問題では、国の正答率を13.7ポイント上回った。</p>	<p>・円グラフなど目盛りの読み取りは、一つ一つ丁寧に数えていくよう指導していく。</p> <p>・読み取りの問題に関しては、引き続き問題文に書かれている数字や単位などに線を引くなどして立式につなげられるよう指導していく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「自分にはよいところがある」と肯定的回答をした児童は、90.2%で県平均を5.1ポイント、全国平均を6.1ポイント上回っている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と肯定的回答をした児童は、96.1%で県平均を3.1ポイント、全国平均を6.2ポイント上回っている。今後も児童のよさを伸ばし、自己有能感や自己肯定感を醸成するよう全校体制で指導にあたりたい。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答えている児童が100%であった。公德心や規範遵守の意識が高いことが分かる。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的回答をした児童は84.1%であった。これは、県平均を13.7ポイント、全国平均を17.2ポイント上回っている。教師への信頼が高いことが分かる。
- 「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い互いの良さを生かして解決方法を決めている」という肯定的回答が97.2%であり、県平均を9.7ポイント、全国平均を13.0ポイント上回っている。引き続き、多様な考えや互いのよさを認め合えるような場の設定をするなどの教育活動を継続する。
- 「国語、算数の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つ」との肯定的回答は、それぞれ98.1%（国語）、96.1%（算数）とどちらも県、全国平均を上回るなど肯定的回答をした児童が高い割合を占める。
- 「英語の勉強は好き」と肯定的回答をした児童は、82.4%で県平均を9.2ポイント、全国平均を13.2ポイント上回っている。また、「英語の勉強は大切だと思う」と肯定的回答をした児童は100%であった。英語の学習への興味や意欲が高いことが分かる。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っている」の肯定的回答が60.8%で、県平均を9.6ポイント全国平均を10.3ポイント下回っている。今後、約束を守ること、約束の再確認・見直しを行うと共に、家庭へも啓発をしていく。
- 「将来の夢や目標を持っている」の児童の肯定的回答が76.5%で、県平均を7.7ポイント、全国平均を5.9ポイント下回っている。日常的なやりとりにおいて、将来の夢を語り合ったりする視点に配慮した関わりに努める。また、人の役に立つ経験を味わえる内容や場の設定などを行う。
- 「学校が休みの日の一日の学習時間」では、1時間以下が43.1%が一番多い。また、2時間以上勉強する児童の割合は5.9%で、県、全国平均を14.8ポイント下回っている。今後、学習の基礎基本の定着を図るとともに、家庭学習の仕方を指導して自主学習への充実を図る。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表している」と肯定的回答をした児童は、51.0%で県平均を15.1ポイント、全国平均を15.1ポイント下回っている。授業の終末に振り返りをして、自分の考えを文章にするような学習活動を積極的に行っていく。

宇都宮市立御幸が原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発 5月、1月に「家庭学習強化週間」を実施し宿題や自主学習の習慣化や取り組み方の周知	平日の家庭学習時間が1時間以上の児童は、58.8%で県をやや下回った。「30分より少ない・全くしない」と回答した合計は15.7%で、県を3.4ポイント上回った。土日は、「30分より少ない・全くしない」が58.8%へ増加し、県を14.9ポイント上回っている。
主体的に学びに向かう授業のデザイン	見通しをもって粘り強く取り組めるような課題の設定や提示の仕方の工夫 成果や自分の成長、つまずきを実感できるような振り返りの工夫	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の授業につなげることができていますか。」の肯定的回答は84.4%で、県の平均をやや上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
漢字を書く問題では、国の平均を6.4ポイント下回っていた。漢字を書く力に課題が見られる。	漢字オリンピックテストの実施	1学期に1回、全学年でほぼ同時期に漢字のまとめテストを行う。事前に練習時間や機会を十分にとってから実施する。家庭にも実施を周知し、家庭学習でも準備を依頼する。「めざせスーパーみはらっ子」の活動を活用し、主体的に取り組めるようにする。